

校歌制定についての調査を通して

校長 堀井 良彦

みなさんは、平成5年（1993年）に作られた創立120周年記念誌「ふるさと平野」という本を開けたり読んだりしたことはありますか。今から26年前ですが、その本が広く平野の地区のみなさんにも配られたはずです。学校にもまだ多く残っていて、後の平野小学校の子どもたちにも「ふるさと学習」等の資料として役に立っています。この本は、伊賀上純教頭先生のお父様である第26代の伊賀上圭介校長先生が中心になって作られたもので、その当時は、PTA会長が山本光明市議会議員さんでした。今の公民館長の谷本弘さんも平野小学校に勤務され、この本の出版に深く関わっておられたようです。

（実際には、正確に言うと120周年の年には転勤されていました）

さて、前にもお話ししましたが、今が2019年ですので創立明治7年（1874年）創立ということは、145年前にあたります。150年の節目には、今の1年生が6年生になった時です。きっと150周年記念の事業が盛大に行われるはずです。

（1993年に120周年記念だと2023年に150周年記念ではないかとも考えられます。そうすると今の2年生が150周年の年に6年生です。でも、久米小は1819年創立で2019年に100周年記念事業をします…。）

さて、前置きが長くなりました。「ふるさと平野」を開けて3ページには、カラー刷りで校旗を広げたものと校歌を取めた額の写真が載っています。いずれも昭和39年制定という括弧書きです。11ページには、「昭和39年3月14日－校旗・校歌制定式を行う。」と記してあります。校旗の図案化（願いや思い）については、平成31年度の教育計画の4ページに載っています。

そこで、校歌についてお話をしようと考えました。校歌に託された思いや調べていくうちに意外な事実が明らかになってきて、まさにドラマのようなことも多くありましたので、今回はお話をしたいと思います。

まず、校歌に込められた「思い」や「願い」、「教え」等について考えていきましょう。

1番の最初の歌詞に「高森城址」が出ています。高森城というのは、16世紀頃の戦国時代に要塞堅固の城として有名だったようです。「ふるさと平野」や「大洲市誌」にもここについての記述があります。宇都宮房綱の重臣である梶谷伊豆守景則が城主でしたが、大野直之に奪われました。遺言により景則の3人の息子が高森城を取り返し、その後再度の攻撃を退けたとあります。今は城跡だけになっていますが、平野の人たちにとっては誇りに思っているところでしょう。そのお城には松がたくさん生えていて見事な彩を呈していることや校庭に桜の花が見頃であるときの風景をイメージしてください。学校から高森



城を見た時に、朝日に映えてとてもすがすがしく美しい様が描かれています。残念ながら、高森城址の松は、松くい虫の猛威にさらされ、今は見る影もないとのことでした。

また、2番と3番には、「平野地区が昔から、農業・林業・工業・鉱業で栄えていたことや、文化の香りが豊かな地であったことを誇りに思いなさい。」と伝えてくださっています。

そして、1番から平野小学校児童への「教え」がそれぞれにあります。

○ 「強く 正しく 美しく」伸びて行きなさい。

○ 「直く 明るく たゆみなく」歩んで行きなさい。

※「直く」は、素直にまっすぐにという意味

○ 「清く やさしく いさぎよく」生きて行きなさい。

また、2番の「幾春秋も つかのまも」と「ひとすじの道 ひたすらに」のところでは、「小学校の6か年は長いようではあるがあっという間に過ぎてしまいますよ。夢の実現に向けて自分が決めた道をまっすぐ元気に日々突き進んで行きなさい。」と、そして3番の「望みの庭の あけくれを」は、毎日の学校生活でも、正しい（清い）行動とやさしく思いやりのある行動と潔い行動を心掛けなさいと教えてくださっていると考えています。

これらの「教え」となる言葉は、総じて校訓に集約されるのではないのでしょうか。

どうか平野小学校の79人のみなさん。みなさんへの思いが詰まっている校歌です。そして、およそ70歳の平野小学校出身の人たちならだれもが歌っている、そして多くの人が歌える校歌です。平野小の校歌に誇りと自信を持って、堂々と歌い継いでいこうではありませんか。

歌声が響く学校にしたい！校歌が朗々と歌える学校にしたい！

そんな思いは最近の学校現場では影を潜めているように感じて

残念でなりません。

「校歌を声高らかに歌うのが当たり前」・・・そう思っています。

以上のことを、校長訓話の時に子どもたちに伝えました。それからは、月に1回行っています全校集会での校長訓話の際には、校歌を必ず歌うようにしているところです。

さて、先にお見せしたスライドで、何かを気付かれた方がおられるかもしれません。

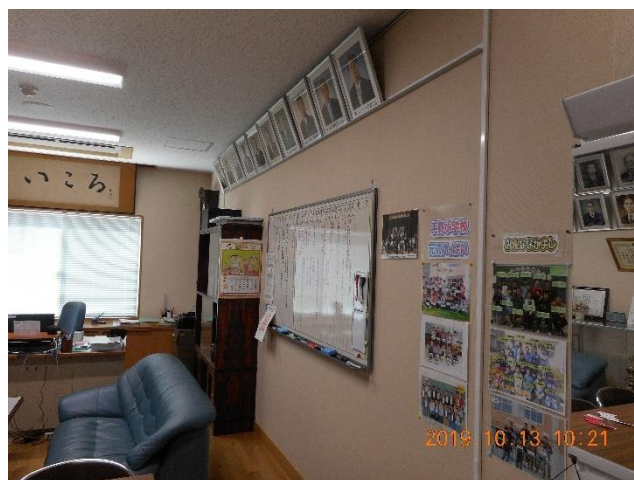
これからお話しすることは、作詞者の「井上卓美」というお名前が、校長室にある第7代校長の「井上卓美校長」と同じ名前であるということに気が付いたことから端を発した、お話になります。

しかし、私は決して完結だとは思っていません。

むしろ、これからの情報提供を呼びかけるものであるということをどこか頭の片隅に置いておいていただければ幸いです。

では、これから分かってきたことについて、お話をさせていただきます。

このスライドで見たいところは、作詞と作曲の方のところ。「井上卓美作曲」とあります。この方の名前は、第7代の校長先生と同じです。昭和39年当時のことを知っておられる方を探しました。自治会長の明後久利さんが、ちょうど当時の6年生だったのです。制定式のこと覚えていらっしゃいましたが、作詞者や作曲者のことは良くは覚えていらっしゃいませんでした。無理ありません。明後さんから当時の6年生担任がお元気で平野にお住まいであると聞きました。白石志寿雄先生です。そこで、御自宅まで訪ねてみました。すると白石先生は、作詞は確かに校長先生が作られたと聞いていると教えてくださいましたが、それ以上のことはあまり覚えていらっしゃいませんでした。



残念なことにそこで行き詰ってしまいました。ここでは、おそらく第7代の井上卓美校長先生が作詞でいいと思うことと、「井上佳作曲」とありますので、もしかしたら井上校長先生のお身内かもしれないと考えましたが、その時点では、まだ分からないままです。加えて、井上卓美校長先生は、平野での校長期間は、昭和10年度から13年度の4年間です。20年以上後の昭和39年の制定となるとかなりずれがあります。間違いないとは言いきれないのがそこでした。

ちなみに、学校で永年保存すべき帳簿である沿革史を開いてみると、昭和39年の制定式のことを当時の校長先生である第17代富田運夫(第16代青木憲夫の間違い)校長先生が残してくださっていました。そこには、式次第が記されており、「四 作詞作曲並校旗図案作成者の話し」とあります。突破口がどこにあるはず…。

ほどなく、6月26日（水）に、6年生の平和学習のために打合せに来られた「丸山 徹子先生」に、いい機会であったので尋ねてみました。丸山先生は、明日香にお住まいで音楽の先生として平野中学校にも勤務しておられ、退職後も帝京第五高校や帝京幼稚園で講師をされており、現在も非常勤講師として御活躍をされています。

はっきりしたことは御存知なかったのですが、作曲者の井上佳氏のことは聞いたことがあるとのことと、「また調べておきます。」と言ってくださっていました。

6月28日（金）に、6年生の本番のために来られました、予定より早めに来られて、早速御自分がその後井上佳氏について調べられた報告をしてくださいました。（以下は要点を記載）

井上佳さんは、「いのうえ かい」と呼ぶと思う。昔から、「かいさん かいさん」と言っていた。愛媛県の音楽仲間のうちでは有名な方だった。とても物静かな品行方正な方で、その分親しい人は少なかった。愛媛県立松山盲学校の校歌も作っておられる。

本人は、愛媛師範学校を卒業後、更に日本大学芸術科に進学され、卒業後松山盲学校に勤務されていたことまでは分かった。いろいろな学校で作曲を頼まれていた様子だ。松山市の平和通りで住居を構えておられて、すでにお亡くなりになっている。

残念ながら、私の知人もかなり年配で、これ以上は調べられなかった。

ここまで調べてくださった、その好意と熱意に、恐縮し感謝しました。

そこで、**愛媛県立松山盲学校のホームページ**をインターネットで検索し、新たに分かったことがありました。それは、校歌が、「**井上卓美作歌詞、井上佳作曲**」であることです。残念ながら何年の制定かまではホームページに載っていませんが、今度機会があったら、そちらに問い合わせもできるなど一筋の光が差し込んできました。

また、井上卓美校長先生についても、ここで新たな情報がキャッチできたことから、インターネット検索してみると、意外な事実も判明しました。それは、大洲市立三善小学校の校歌は「井上卓美校長先生の作詞・作曲だった」のです。しかも、現三善小校長の西本先生に確認してみると、平野小に校長をされる前の勤務校が三善小で（昭和8年4月から昭和10年3月まで）校長を務めておられたとのことでした。加えて、大洲町立大洲中学校（大洲南・北中学校に分離する前の中学校）の初代校長に昭和22年4月という記録が見つかりました。平野小に残っている沿革史では、井上卓美校長先生の出身地は「平野」です。また、明治31年10月22日のお生まれです。（明治31年は1898年）となると、平野小に着任したときは、昭和10年（1935年）ですから、 $1935 - 1898 = 37$ で実際には、誕生日が来る前なので、36歳にて平野小学校長に就任です。（三善小は、実に34歳の年）

話には聞いていましたが、昔の校長先生は、ずいぶん若くしてなられたのですね。また、大洲中学校の就任時も48歳ですので、まだまだ現役ですし、もしかしたら昭和39年の校旗・校歌制定式の時にも、66歳ですからお元気で実際に制定式に出席され、話をされたかもしれないです。このことも当時の記憶のある方を探して、聞く機会があれば是非にと思っています。

今後調べられる道筋として、「三善小の沿革史を紐解く」「愛媛県立松山盲学校の沿革史を紐解く」平野が本籍地であるので、「地域の古老に尋ねてみる方法」「住所を突き止める方法」と光が見えてきました。昭和10年頃の小学生は、90歳以上の人ということになりますね。

7月1日に、とてもうれしいことがありました。昨夕、おおむね今までのことをまとめた原稿を添付して、メールで愛媛県立松山盲学校の校長先生宛に依頼をしておいたところ、本日 17:00 頃にわざわざ大西俊一校長先生からお電話をいただいたのです。まさに、「愛媛県立松山盲学校の沿革氏を紐解く」ところに説明の手掛かりを見いだせた瞬間でありました。**(念ずれば花開く!)**

大西校長先生から教えていただいたことを以下に箇条書きでまとめます。

- 井上卓美校長先生は、松山盲学校の校長を勤めていた。
 - 井上佳先生は、予想通り井上卓美校長先生の息子さんであった。
 - 井上佳先生も、松山盲学校の教員として勤務した。
 - 親子で視覚障がい児の教育に情熱を傾け、目の不自由な子には音楽が必要であるという信念で、熱心に取り組まれた。その結果（集大成?）として校歌も残されたのだろう。
 - 学校創立 70 周年記念に作られた記念誌に井上卓美校長先生が寄稿された文も載っている。
 - また、井上佳先生を偲んでという当時の生徒（70 周年当時は教諭）からの文も残っている。
 - 井上卓美校長先生については、本当に教育者として尊敬している。
- ※ 連絡を受けて、幸運にも平成 29 年に 110 周年記念のために過去の文献を調べていたこと等から、すぐにこうやって井上卓美校長のことがつながり、平野小に連絡することができた。後日読んでもらったら分かる文献を送ります。

大西俊一校長先生には、心から感謝いたします。また、これも丸山徹子先生が調べてくださったことでつながりができたわけです。愛媛県立松山盲学校までは、私のイメージの域を超えていましたから…。
ありがたい！

さらに、驚いたことに、7月2日（火）には、大中保行さんが午後2時過ぎに来校されました。あいにく、私は外出中でしたので、伊賀上教頭先生と富永先生に対応していただきました。どうも、丸山徹子先生から御本人に連絡があったようです。

- ・井上卓美校長先生は大洲では有名な校長先生で、佳先生はその息子であること。
- ・佳は「かい」と呼ぶ。
- ・昭和 25 年～昭和 30 年くらいには、松山盲学校に勤めておられた。
- ・昭和 24 年唱歌コンクールにて井上佳先生が手をつないでステージに上がっていたのを見て感動した。

以上のような情報をいただきました。わざわざお越しいただきました。大中先生は昭和 4 年のお生まれだということなので、90 歳前後の方です。こうやって平野の地まで足を運んでくださることを考えると、今自分がしていることの反響に驚きを感じました。

松山盲学校の大西校長先生から 7 月 4 日に資料が届きました。

資料を読ませていただいて、「**真の教育者がここにいた。**」と感じずにはいられませんでした。

松山盲学校の大西校長先生からは、いくつかの資料（コピー）を送っていただいています。

- 「懐起断草 井上 卓美」創立 70 周年記念誌より
- 「井上佳先生を偲んで」創立 70 周年記念誌より
- 「校歌 ここぞ御幸 ー井上卓美先生ー 元教諭 岩田 武美」

創立 80 周年記念誌より

大西校長先生が、一昨年（平成 29 年度）、松山盲学校の校長に就任されてすぐに創立 110 周年の記念誌の巻頭言の原稿を書かなくてはならない状況となり、校



六代校長 井上卓美先生

2025.4. / ~2024.8.31

井上卓美校長先生は、昭和 24 年 9 月に県教育委員会から就任を要請されたが、年度途中につき辞退されたこと。昭和 25 年 4 月からはぜひということで第 6 代（正式には第 4 代）校長として着任された。

視覚障がい児教育でも、人間として完成することが第一義であることを信念とされ、職業学科優先であった当時の教育方針を普通教科の指導を重視し、情操教育の主軸として音楽教育を積極的に推進された。そこで、音楽の指導者を獲得したいが、適任者がいない（来てくれない）。親子で同勤は良くないし、佳先生も高校就職を希望されていたが断念させて後任者が得られるまでという約束で盲学校に来てもらった。その他、様々な功績を残された。

松山盲学校が盲啞学校から分離しての校名改称で新たに校歌を制定することになり作詞は校長先生に託された。（昭和 25 年に着任されて昭和 31 年 5 月に校歌制定）

執念とも言えるほどの情熱を持って校歌を作詞された。（元教諭の岩田武美先生の創立 80 周年記念誌の回想文を読んでみて心を打たれました。）

井上卓美・佳先生親子で、巡回授業として総勢 40 名余りが平野・上須戒・三善・菅田の 4 か所を訪問した。

井上卓美校長先生は、昭和 61 年 88 歳で御逝去された。

井上佳先生は、盲学校に着任して、合唱団を作られた。（大中氏の話とリンクする）また、当時は通常の学校でも珍しい吹奏楽部も創設された。指導は厳しく普段は本当に優しく情熱を持って子どもたちに向き合っておられた。

音響設備の設置等（機械関係）にも御堪能で、校内の放送設備は佳先生の手作りである。

井上佳先生は、昭和 51 年 50 歳の若さで御逝去された。

長室にある今までの記念誌を読まれていたことが、私にとっては本当に幸運でした。そうでなければ、問合せの突然のメールは厄介で迷惑な話だったでしょう。これも、不思議なめぐりあわせと言わざるを得ません。

平地の山本智彦さんにも御来校いただきました。平野小の PTA 会長や公民館長も務めておられた方です。山本さんの奥様が、井上卓美先生の姪にあたるそうで、野田の香田が御出身であるとのこと。

井上卓美先生は、長浜高校（当時の長浜女学校）の校長もされたのではないかと。佳先生には、妹さんがおられて県立学校の音楽の先生をされていたのではないかと。名前は「すみこ」さん。等の情報をいただきました。

長浜高校に確認の連絡を取ったところ、長浜高校（長浜家政女学校）の初代校長が井上卓美先生であったことが分かりました。（任期は、昭和 17 年 3 月 31 日～昭和 21 年 3 月 31 日）

そこで、香田にお住いの井上英二先生に電話で問い合わせをさせていただきました。もしかしたら、姓も地区も同じだし、御存知のことがあるかもしれないという思いからです。やはり遠い親戚にあたられるということで、佳先生の若い時のことも少し記憶にあるとのことでした。今は廃屋になっているけれども、井上卓美先生の生家が英二先生の家近くの線路の向こう側に残っているということも分かりました。でも、かなり前に松山の方へ引っ越しをされ以来、お付き合いもなくその後のことは分からないということでした。どうやら、佳先生には妹さんが確かにいらっしゃったが、御結婚されてからの姓も分からないということでした。

まだまだ井上卓美校長先生と井上佳先生について、もっともっと知りたいです。それが私に与えられた御縁そして責務だと思うようになりました。

どうか、情報をお持ちの方、資料をお持ちの方の御連絡をお待ちしています。よろしくお願いいたします。

体育館にある校歌の額は、谷本 弘 先生（現公民館長）が書かれたものだそうです。達筆です。

※ 以上のような内容を、11月23日の学習発表会の時に話しました。

またまた、すごいことが起こりました！（繋がりがありました！）

学習発表会も終わり、一段落ついた12月6日に、大洲市三善（春賀）にお住いの「梶原えつ子」さんからお電話をいただきました。山本智彦さん奥様が前述の通り御親戚にあたるとのことでしたが、そこから梶原さんの方に連絡をしていただいていたとのことでした。井上卓美先生の弟さんにあたの方が「梶原まもるさん」で、その子「てるひさ」さんの奥様が「えつ子」さんです。梶原さんと佳先生の妹さんの「すみこ」さんとは今も親しく御連絡を取り合う間柄だそうです。

更に、12月9日に梶原えつ子さんが、わざわざ平野小学校にお越しくださいました。

それらを通して知り得た情報は、以下の通りです。

井上卓美先生の長女で佳先生の妹にあたる「すみこ」さんは、現在は「清水寿美子」さんで、宇和町にお住まいを構えて御健在でいらっしゃる。高校の音楽の先生として御活躍をされ、清水穰（ゆたか）さん（高校の化学の先生？）と御結婚されて、お二人ともお元気である。

寿美子さんには弟さんがいたがすでに亡くなっておられる。平野町の香田の生家は、大洲市柚木にお住いの御親戚（井上憲一さん）が時々様子を見に来られて管理されている。

梶原えつ子さんは、「寿美子さんから、『平野小の校長が、父や兄のことをもっと知りたいとのことであるなら、協力してあげてほしい。』とのこと訪ねて来ました。」とおっしゃってくださいました。今更ながら、不思議な力でつながっていく、この御縁に感謝です。

それなら、清水寿美子さんに稚拙ながら私が今までにまとめたものをお届けすべきと考え、連絡をさせていただきました。

年の瀬も迫った12月27日（金）は、記念すべき日になりました。

清水寿美子様から、直々にお電話をいただいたのです。こちらは、勝手に調べている側として、あまり御家庭に踏み込むようなことになってはいけません。ですから、今までのことを井上卓美先生と佳先生に対して敬意を表すつもりで今までのことを資料として送っていました。もしつながりが持てればという期待があったのも確かなのですが、清水様側としては、「送っていただいていた、御連絡が遅くなって申し訳ない。」というお気持ちがあったようです。恐縮です。

まだまだ御健在で、一応西予市宇和に定住をされてはいるものの、松山の方で音楽活動（松山バツハ合唱団所属）をされており、週に2～3日は、松山に住んでおられるとのことでした。

- 兄の佳先生とは、6歳離れていて、小さいころよりも、成人してから同職の立場で何かと話すようになった。
- 大洲高校勤務の時には、平野の香田の生家に何度か行ったことがあるが、小学校に入る前ごろが父の卓美先生が平野小の校長だったので、その頃の思い出がある程度である。
- 平野小の校歌を作ったころは、すでに家を離れているので、当時のことはよく分からない。

清水寿美子さんは、とても落ち着いてお話をされる方でした。連絡が遅くなった非礼を詫びておられましたが、決してそんなことはありません。わざわざ御連絡をいただいたことに感激です。何より、こうして直接お話ができたことが、最高の喜びとなりました。

「ぜひ3学期には、**平野小の子どもたちの生の声での校歌**を聞いていただきたい。」とお願いしています。

校歌のメロディーが分かるように、先に楽譜を送らせていただきます。

～令和元年のいい締めくくりができました。感謝！～